

■水野忠成(出羽守)
みずのただあきら
・・・・・・1762＝

老中。主君家斉の放埒諫めず、収賄と身びいき政治で、幕藩体制の破綻へ。

旗本岡野知暁の次男として生まれる。

御蔭参流行・1771＝9歳：
田沼意次老中1772＝10歳：

船蝦夷来 1778＝16歳：2000石取りの旗本水野忠隣の末期養子となり、忠隣の養女を娶って家督を相続。吉太郎と称する。

・・・・・・1780＝18歳：
10代将軍徳川家治に仕え、小納戸役、小姓を歴任、

蝦夷初調査・1785＝23歳：従五位下大和守に任官。
田沼意次失脚1786＝24歳：将軍家治が死去。沼津藩主水野忠友の養子となり、その娘八重と再婚。
寛政改革始・1787＝25歳：11代将軍に徳川家斉がなる。

初の横綱・・1789＝27歳：

松平定信引退1793＝31歳：

古事記伝・・1798＝36歳：
蝦夷地直轄始1799＝37歳：ロシアの南下に備える必要から、この年、幕府は、能力不足の松前藩を事実上の改易処分して、東蝦夷地を幕府の直轄地(天領)とし、

一九膝栗毛始1802＝40歳：義父忠友の死により、第2代沼津藩主となり、奏者番に任命された。
アリ船来航始1803＝41歳：出羽守となり、寺社奉行を兼帯する。

バフ報復・1806＝44歳：従四位下、若年寄から、
船狼藉・1807＝45歳：この年、西蝦夷地も幕府の直轄地(天領)にする。

高田屋拿捕・1812＝50歳：*側用人となり、11代将軍徳川家斉の側近として台頭する。

伊能測量終・1816＝54歳：*側用人を兼帯のまま、老中格となり、奥勤にもなる。
杉田玄白没・1817＝55歳：侍従兼任。
水野忠成老中1818＝56歳：勝手掛となる。いわゆる*『寛政の遺老』松平信明の死を受けて、老中首座に就任、
義父忠友は松平定信と対立した田沼意次派の人間で、忠成は老中になると、不遇だった田沼意正を若年寄に抜擢し、田沼家を旧領の遠江相良へ復帰させ、幕政の責任者として、田沼時代をはるかに上回る空前の賄賂政治が横行、庶民から'水野出て元の田沼となりにけり'びやぼんを吹けば出羽どん出羽どんと金がものいういまの世の中'などと皮肉られた。将軍家斉が放漫な浪費を続け、幕府財政の不足を補うために良貨と言われた元文小判を廃して大幅に品位を落とした文政小判を発行、その結果、貨幣流通量は46%も増加して幕府は550万両にも及ぶ出目(差益収入)を得る一方、激しいインフレを引き起こして、化政文化の全盛期を現出。この間、蝦夷地の復領を目論む松前家の章広から、多額の賄賂攻勢をかけられると、
伊能図完成・1821＝59歳：将軍にこそ図りはしたものの、ほぼ独断で復領を決定。その後、蝦夷地は再びロシアの南下政策に晒されて行く。1万石加増。

異国船打払令1825＝63歳：
日本外史・・1827＝65歳：この年、徳川家斉の太政大臣任命の日に津軽藩主津軽信順が轎の車に乗っていたので逼塞となったが、これは忠成が請託を受けて轎の車を許したからで忠成もただでは済まないという噂が流れ、水野の公用人が切腹したというデマが流れたが、この話を聞いた忠成は'越中守の逼塞は自分が申し付けたので、賄賂を取っていたら許してやったものを'とって笑ったという。

シボム追放・1829＝67歳：1万石加増。
高島砲術・・1834＝72歳：*老中在職のまま、没した。